

第1回海岸事業評価手法研究会」における議論の整理とその対応方針(案)

発言要旨	キーワード	対応方針
(1)研究会の位置付け		
【肥田野座長】 本研究会を公開の議論にしてはどうか。また、委員発言については名前入りで公開してはどうか。	公開	第1回研究会の議事録については、議事要旨の形で公開することとし、名前入りでホームページ等に掲載する。また、第2回研究会については、説明資料についても公開する。
(2)検討範囲について		
【肥田野座長】 親委員会に従った検討とともに、海岸事業に則した案を提案してはどうか。	検討範囲	現在、水産庁の方で費用対効果の議論を行っているところであり、議論がまとまり次第評価項目について調整を行う。
(3)公共事業評価の基本的な考え方(案)に対して		
【肥田野座長】 公共事業評価システム研究会への河川局全体の動きを把握すること。	親委員会	河川局全体の動きを把握し、第2回研究会で報告する。
【肥田野座長】 親委員会に対する問題点の整理。	親委員会	河川局全体として、防災という観点から調整を行い、親委員会報告する。
【肥田野座長】 重みの評価については、責任の正当性が必要である。	親委員会	
【清野委員】 地球環境保全には、生物の多様性等が含まべきである。あるいは、地球温暖化に限定して自然環境の保全をいれるべきである。	親委員会	
(4)評価項目について		
【山本委員】 海岸利用状況等のソフト面を評価にいれるべきである。	ソフト面	地域社会の中に、「浜辺の利用状況の把握状況」を評価項目とし、また、防災面のソフト対策として、「津波・高潮のハザードマップ作成状況」を追加する。
【清野委員】 海岸全体の効率性をとらえた複合的な評価にいれるべきである。	複合評価	肥田野座長のご指摘のとおり、相乗効果的な項目を指標に入れるのは困難である。
【清野委員】 沿岸への影響について、検討しているかどうかを評価項目に入れるべきである。	環境への影響調査	沿岸への影響についての調査は予算上多額になるため、「自然環境等に関する保全検討の有無」を評価項目に追加する。
【清野委員】 隣接する他事業が当該海岸への影響を必ずしも最小化する計画とはなっていないとする視点からの評価、結果として、抑止力を期待することになるような評価も必要ではないか。	他事業への評価	他事業との連携は各都道府県の中で調整を行っており、新規評価項目に入れるのは困難。
【肥田野座長】 分配の問題については検討する必要がある。 【鳥居委員】 単純に評価を行えば、都市部が地方部を抑えつけるものとなる。	地域格差	評価項目を工夫することにより、できるだけ地域格差が出ないようにする。
【鳥居委員】 ネーミング事業が重要ではなく、地元の熱意等プロセスが重要なのでは。 【肥田野座長】 地元の熱意を別の形で評価するようなシステムを入れるべきである。	地元協力	ネーミング事業については、各小項目に1つの評価項目とする。また、地元の熱意については、「地元の協力体制」の評価指標を工夫する。
【肥田野座長】 自然環境は、貴重種等にとられず、生物生息空間としての「場」の把握と保全検討がなされているか否か程度で点数をつければよいのでは。(海岸管理者に具体的な作業を行ってもらうことによる、自然環境への働きかけが重要)	環境項目	評価項目として「生物の多様性に資する空間の把握状況」を追加し、海岸管理者への働きかけとなる評価指標とする。
【清野委員】 地域史や郷土史等から海岸の地域での位置付け資料にしてもらうことはできないのか。 【肥田野座長】 植生調査をやっているかどうかでもよいのでは。	環境指標	評価項目として「自然環境等に関する保全検討の有無」を追加し、評価指標とし「環境マップの作成」状況を追加する。

発言要旨	キーワード	対応方針
【山本委員】 バリアフリーへの反映を評価項目に入れるべき。	バリアフリー	評価項目として「ユニバーサルデザインの推進」を追加する。
【肥田野座長】 雇用・生産性は削除してはどうか。	(二重計上)	雇用・生産性については削除する。
【肥田野座長】 施設の有無ではなく、考え方が取り込まれているかの概念で評価できないのか。	評価手法	「海辺眺望の可能性」「海辺へのアプローチ性」の評価指標を概念評価に変更する。
【肥田野座長】 海岸管理者と地元(愛護関係者)関係者の連携の有無でも評価項目としてはどうか。	地域連携	地元協議状況の中で「懇話会等の設置」を評価指標とする。。